

「やってみませんか？くすりの授業 —くすり教育教材貸出のアンケート結果から—

東京都 くすりの適正使用協議会 啓発委員会

澤田 久美子、近田 和幸、堀江 有子、穴戸 正二、玉田 隆司、佐藤 実、福田 章一、安井 舞、木村 忠雄、松田 偉太郎

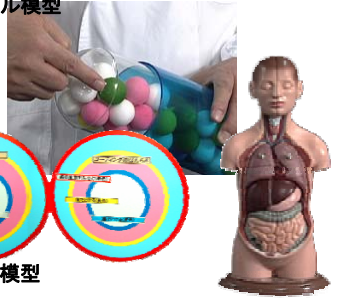
幼い頃からくすりを飲む機会が多い中、「睡眠不足で頭が痛かったのでくすりを飲んだ」、「お茶やジュースでくすりを飲む子供が大半」など医薬品の正しい使い方を知らず、間違った知識で安易に薬を扱っている深刻な現状がわかっている。今後、さらに簡単に薬が入手できる環境になり、子供であっても薬の正しい知識を持ち、「自己判断力」が求められる時代になってきたと言える。

くすりの適正使用協議会は児童へのくすり教育の必要性を感じ、約5年前から、教育プログラムの検討や教材の開発、先生方への情報提供を行ってきた。また、授業で使える教材(模型)の貸出(トライアル)も行っている。

今回、その教材を用いた授業を受けた子供に対するアンケート結果をまとめた。

くすり教育教材

大型カプセル模型



錠剤断面模型

小型人体模型

アンケート調査方法

目的: 模型を使って行われた授業の理解度や感想
対象: くすり教育教材貸出(トライアル)を利用した95小学校(延べ174クラス、約7,400名の児童)
方法: 教材貸出時に授業後アンケートの記載を依頼
期間: 2005年2月～2008年3月
回答数: 42小学校(延べ94クラス、2,762名、44%より回収)

アンケート調査票の内容

- もし、あなたが病気になって「くすり」を飲むとしたら、きょうの「くすりの授業」は参考になりましたか？
 1) 参考になった 2) まあ参考になった 3) 参考にならなかった
- 授業の内容は理解できましたか？
 1) 理解できた 2) ある程度理解できた 3) 理解できなかった
- きょうのような授業をまたやってほしいと思いますか？
 1) やってほしい 2) どちらでも良い 3) やってほしくない
- きょうの「くすりの授業」で、いちばんおもしろかったところは、どこですか？(自由記述)
- くすりのことで、もっと知りたいことはありますか？それは、どんなことですか？(自由記述)

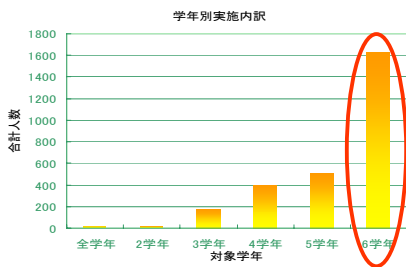
結果

くすりの授業は2年生のクラスから6年生のクラスで実施され、多くが6年生であった。「くすりの授業の内容」について「理解できた」とした児童は88%で「ある程度理解できた」を含めるとほぼ全員となった。くすりの授業が参考になったかどうかについて約70%強が「大変参考になった」とし、「まあ参考になった」を含めると99%で児童は役に立った知識を得たと思われる。

アンケートでは「一番おもしろかったところは?」、「もっと知りたいことは?」など児童の意見も書いてもらったが、薬を飲むときには水で飲むなどの「正しい飲み方・使い方」、「教材(カプセル、錠剤模型)」、「実験」に関心が集まった。

学年別受講者数

(n=2,762)



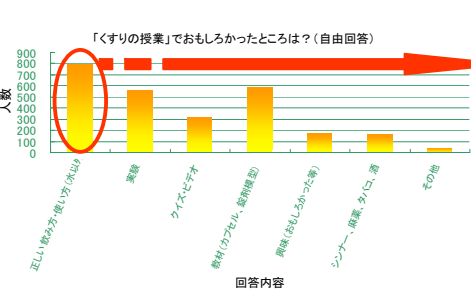
設問「参考になった?」、「理解できた?」のクロス集計

(n=2,762)

	参考になった?				総計
	大変参考になった	まあ参考になった	参考にならなかった	その他	
理解できた?					
理解できた	53.7%	13.8%	0.3%	0.0%	67.8%
ある程度理解できた	17.3%	13.8%	0.2%	0.0%	31.1%
理解できなかった	0.1%	0.5%	0.3%	0.0%	0.8%
その他	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%
総計	71.1%	28.0%	0.8%	0.1%	100%

「くすりの授業」で興味をもたれた点

(n=2,762)



「正しい飲み方・使い方の詳細分類」

薬を飲むときの注意(水で飲む)	234
薬の種類と形(内服薬/外用薬 カプセル味見実験 カプセルの中のツブツブの工夫(大型カプセル模型使用) 錠剤の仕掛け(錠剤断面模型使用))	213
薬を飲むときの注意(全般)	143
薬の効き方(薬の体内動態 ADME(吸収⇒分布⇒代謝⇒排泄) 血中濃度)	76
薬の副作用	75
薬を飲むときの注意(自分もらった薬以外は飲まない)	58
薬を飲むときの注意(決められた量)	57
くすりの正しい使い方(病気になったら? 自然治癒力 薬の役割/働き)	51

※左の設問で「正しい飲み方・使い方」を回答した200名の回答を分析し詳細項目に分類し20件以上の項目を抜粋し1人で複数項目回答の場合あり

考察

この調査によれば、授業内容についてももっとも興味を持たれたのが「くすりの正しい使い方」に分類される「薬を飲むときの注意」であること、そして授業を受けた99%の子供達が、授業が参考になったと回答したことから、普段の生活で子供達が如何に正しい知識なくして薬と触れ合っているかが明らかになった。授業を受けた子供達の自由回答には、これからは正しく使いたいとの思いが強くみられ、生活していく上での必要な知識として認識、吸収されたことも分かる。

平成24年からは中学校にてくすりの教育が義務化されるが、薬はもっと幼いうちから使用する機会が多く、学校薬剤師は学校側と協力し、薬の専門家としてますます積極的にくすり教育に関与していくことが求められる。

くすりの正しい使い方を伝える上で、カプセルや錠剤の大型模型が効果的であることも証明された。